

ダリットを 知る

グローバルイシューとしての
世系に基づく差別 に向きあい
誰ひとり置き去りにしない ために

発行： 反差別国際運動（IMADR）



はじめに

「持続可能な開発」のかけ声のもと世界ではさまざまな未来が描かれている。大きく変化する世界にあって、最も周縁化されたコミュニティである南アジアのダリットは、数十世紀にわたり頑強に維持されてきたカースト制度の枷と、急速な発展がもたらした現代世界の矛盾の狭間に置かれている。ダリットにとっての持続可能な開発は、ネグレクトされてきた自分たちの存在が可視化され、社会の営みにおける平等な参加と包摂が保障されることだ。

日本ではダリットについてほとんど知られていない。カースト制度のもとでのアンタッチャブルだと言えば少しは分かってもらえる。インドを中心に南アジアには約2億人のダリットが暮らしている。生きる権利も含め、基本的人権を脅かされながら。

地球はますます狭くなり、人と物の往来はさらに激しくなった。アジアに関心をもち、コミットする人が日本でも増えた。この地球上で同じ時代を生き、未来を分かち合うダリットについて、そして彼・彼女たちが直面する世系に基づく差別について知ってもらい、問題を共有してもらいたい、そう願ってこのハンドブックを作成した。

■ このハンドブックは公益財団法人庭野平和財団の助成金を受けて作成しました。

目次

用語の説明	2 - 3
各国におけるダリットの概況	4 - 5
世系に基づく差別 - ダリットに対する差別の共通する形・性質	6 - 7
poverty 貧困	8 - 11
water & sanitation 水と衛生	12 - 15
education 教育	16 - 19
women 女性	20 - 23
decent work 雇用・労働	24 - 27
よくある質問	28 - 29
世系に基づく差別撤廃に取り組む機関 および参考文献	30 - 31
脚注	32 - 33
IMADRからのお知らせ	34

このハンドブックは3つのパートからなります。2～7ページまではこのテーマに関する基礎情報です。8～29ページまではメインパートであり、ダリットが置かれている状況について持続可能な開発目標の5つの領域から見る試みをしています。ダリットのコミュニティにとってSDGsは開発目標以上に人道と人権の目標でもあります。最後にこのテーマにとって欠かせない機関・組織および資料について紹介しています。

カースト制度：

カースト制度は、原則と不文律を基にした社会的および経済的統治の形態です。カースト制度は人びとを社会集団に分け、出自によって権利を付与しています。基本的権利の付与はカースト間で平等ではなく、下層にいくほど権利は減り義務が増えます。最下層をなす者には権利はなく義務ばかりが与えられており、不平等の原則が制度の中核をなしています。カースト制度から逸脱すれば社会的に追放されます。このようにしてカースト制度は維持されてきました。現在インドおよびネパールではカースト制度は法的には認められていません。しかし、制度のもとでの規範や社会的ルールは今も人びとの心理と生活に影響を及ぼしています。

ダリット：

カースト制度の外に位置づけられ、アウトカーストあるいはアンタッチャブル（不可触民）として社会から隔離されてきた集団が、近代になって自らつけた呼称です。ダリットは“壊されし人びと”や“抑圧された人びと”を意味します。不可触制を禁止したインド新憲法（1950年）のもと、ダリットは指定カースト（SC）と呼ばれており、行政上においても政府はSCとして分類しています。ネパールやバングラデシュにおいてもダリットと呼ばれていますが、それぞれの社会の歴史的背景によって、差別的呼称も含めさまざまに異なる名前で呼ばれることがあります。

職業と世系に基づく差別：

カーストに基づく差別およびそれに類似した形態の差別を受けているコミュニティは世界各地域に存在し、その人口は2億6千万人になるといわれています。2000年、国連人権委員会（現・国連人権理事会の前身）はこれら差別を「職業と世系に基づく差別」として本格的に調査を始め、2007年には国連人権理事会に報告書が提出されました。職業と世系に基づく差別は、カースト、世系、先祖の職業、社会的出身、名前、出生地、居住地、方言やアクセントなどさまざまな特性をもちます。この偏見に基づいた排除や差別の本質は、「浄・不浄」の観念や「穢れ」の思想に基づいています。これにより「見ない、聞かない、触らない、交わらない」とする不可触制の概念が形作られました。

用語の説明

不可触制 untouchability :

前項で述べたように、ダリットの隔離、排除そして忌避は「穢れ」や「浄・不浄」の観念に根ざしています。不可触制はさまざまな形をとります（6・7ページ参照）。不可触制は、伝統、習慣、作法などにみえない形で組み込まれています。インド憲法17条は不可触制を禁じています。ネパールにも不可触制を禁じる法律があります。しかし、21世紀の今もその慣行はなくなりそうにありません。

留保制度 :

インド憲法では、排除と差別のために不利を被ってきた指定カースト（SC、ダリット）と指定部族（ST、先住民族）の保護が規定され、留保制度が導入されました。連邦および州レベルの議会議員、公務員および高等教育機関において、人口比に応じてSCとSTの特別枠が設けられています。近年のグローバル化のもと、インドでは公営部門の民営化が進み、SCやSTの公務員の特別枠が約10%縮小しました。それに対してダリットコミュニティは民間セクターでの留保制度の導入を求めてきましたが、経済界は強く反発し、CSR（企業の社会的責任）の名のもと、学校建設などの社会貢献的なプログラムの代替策で対応しています。

複合差別 :

ジェンダーを理由に女性は差別を受けたり不平等な扱いをうけます。一方で、人種、民族、カースト、社会的出身などを理由にマイノリティコミュニティは人種差別を受けます。インド、ネパール、バングラデシュのダリットコミュニティの半分は女性です。女性たちはダリットとして差別をうけ、同時に女性差別に直面します。異なる形態の差別が交差し、絡みあって、女性からさらに権利や自由を奪ったり、不利益や負担をもたらします。この状態が複合差別です。複合差別はジェンダー差別や人種差別だけではなく、その他の形態の差別の交差によっても生じます。

マニュアル・スカベンジャー :

公衆トイレや支配カーストの屋敷のトイレの人糞を手で処理する仕事です。特定のカースト集団により代々引き継がれてきた仕事であり、浄化槽などの清掃以外はほぼ女性が従事しています。インドでは2013年に清掃員の雇用を禁止して、社会復帰を進める法律が施行されました。しかし現在でも13,000人以上がこの仕事に就いており、国際社会も大きな関心を向けています。

ネパール

国の人口： 2898万人（2016年）
ダリット人口： 350万人
呼称： ダリット
伝統的職業： 動物の屍の皮はぎ、
マニユアルスカベンジング、
職人、歌手



各国におけるダリットの概況

バングラデシュ

国の人口：	1億6300万人（2016年）
ダリット人口：	460万人
呼称：	ハリジャン（ヒンドゥー） ／ アルザルス（ムスリム）
伝統的職業：	清掃、トイレ、下水などの清掃 茶畑での農作業

インド

国の人口：	13億2400万人（2016年）
ダリット人口：	2億100万人
呼称：	ダリットあるいは指定カースト
伝統的職業：	皮革関連（靴屋、死牛馬の処理など）、 マニュアルスカベンジング、 清掃、埋葬、太鼓叩き（葬列）、農業労働者

各国の人口：世界銀行等のデータより

- 他カーストと…
 - **飲食** を共にすることはできない。
 - **結婚** してはいけない。
 - 同じ **寺院** には入れない。
 - **居住地** は離れた場所。
 - **食堂** の席は切り離している、**食器** 類は同じものを出さない。
 - **墓地** は別。
- 学校の **教室** でダリットの児童は離れた席に。
- 支配カーストの **家** には入れない。
- **土地** を所有することができない。



ダリットに対する差別の共通する形・性質

- **債務** 労働 — いくら働いても雇い主に返せない額の借金で縛られる。
- **強制** 労働 — 代々の仕事であるとして、職業を選ぶ自由を認めてもらえない。借金などで縛られ、本人の意思とは関係なく働らかされる。
- **マニュアルスカベンジング** — 素手で人糞の処理をする仕事。代々その家に仕えてきたとして、雇い主に強制される。
- **児童** 労働 — 貧困、親の無理解などの理由で学校に行かず、外で働かされている。
- **最低賃金以下** の賃金。
- **名誉殺人** — ダリットと異カーストとの結婚で生じる異カースト側の不満や怒りによる殺人を含む犯罪。



65.8

インド のダリット人口¹のうち、**65.8** %が貧困層
(インドの全体平均では55%が貧困層)。²

550-660

バングラデシュ のダリット人口のうち、
推定 **550** ～ **660** 万人が最貧困層。³

42.0

ネパール のダリット人口のうち、
約 **42.0** % (約150～200万人)が貧困層。⁴
(ネパールの全体平均では約25%が貧困層)

貧困

インド、バングラデシュ、ネパールにおいて貧困は国の大きな問題です。その中であって、特にダリット⁵が貧困層、最貧困層に占める割合は高く、どの国においても脆弱な立場に置かれています。

ダリットが直面する貧困問題は、カースト制度のもと社会の最底辺に置かれてきたことに由来します。それによる構造的な差別や社会的排除、そして機会の欠如が連鎖的に作用し、ダリットを貧困の負のスパイラルに追い込んできました。その解決には財政出動や格差是正の措置だけでなく、差別や排除という根本的な原因をなくすための取り組みと、ステークホルダー間の連携が重要です。

一方、公的機関が発表する統計やデータのなかに、ダリットの状況が正確に反映されていないことが多々あります。そのため、ダリットは深刻で複雑な貧困問題に直面しているにもかかわらず、その現状やニーズが、国の政策や貧困対策の中に取り入れられていないことがよくあり、文字通り「置き去り」にされている状況があります。



法律で禁止されているにもかかわらず、ネパールの農村部では債務奴隷が今も実践されています。貧窮する家族が男女子どもを問わずよその家に仕えて、奴隷のように働かされる習慣です。前払いをうけた労賃の返済のために働き始めますが、どれだけ働いても借金は返せない仕組みになっています。

ゴアはネパール西部に住むダリットです。ダリットであることから土地の所有を許されず、いくつもの上位カーストの地主のもとで債務奴隷のように働いてきました。これまで25年間、一度も賃金をもらったことはありません。

ーネパール、ゴア・スナール、55歳
(国際ダリット連帯ネットワーク)

銀行でも、病院でも、貧しい人は何をするにも列に並ばさせられて、何時間も待たされます。お金持ちの人はいつでもどこでも優遇されます。ダリットや女性に対してはさらに対応が悪くなります。

ーインド、ダリット女性の証言
(マイノリティ女性・子ども支援ISSYO 2017年報告書)

貧困問題に関心のあるあなたへ

活動する地域や国にダリットはいますか？

根深い差別や社会的排除のため、実施中の事業、調査報告あるいは入手した指標やデータの中に、ダリットの状況やニーズが反映されていないことがあるかもしれません。

また、それらの人びとの現状やニーズは、第三者による調査やデータだけではなく、独自の調査によって見えてくることがあります。

生活支援や貧困軽減プログラムを行う場合、パートナーとなるダリットコミュニティや団体と直接つながりながら取り組むのが効果的です。



インド、デリー。
マニュアルスカベン
ジャーのダリットが
続けて亡くなったこ
とへの抗議集会。

写真：IDSN

20 / 50

インド のダリットの **20** %は
安全な飲料水を手に入れることができず、
農村部のダリットの **50** %は
公共の水源を使わせてもらえない。⁶

79.0

バングラデシュ 農村部のダリットの
79 %は自分の家に井戸も水道もない。⁷

14.1

ネパール の平地部に住むダリット⁸のうち、
安全な飲料水を手に入れられるのは **14.1** %
(ネパール全体では47.8%)。⁹

水と衛生

ダリットの多くは、都市部および農村部の両方において、ゴミ捨て場や下水溝・排水設備の近くなど、衛生環境がよくないところに住んでいます。居住スペースは極度に狭く、ほとんどの家に水道やトイレはありません。

そのため、多くのダリット世帯は飲料水を含む生活用水を、共同の水道や貯水タンク、地域の井戸あるいは近くにある池や川に頼っています。しかし、これらの水源はしばしば汚染されているため、安全な生活用水の確保が大きな問題になっています。汚れた水を使ったミルクや食事により、乳幼児が下痢やその他の病気にかかり、時には死亡することもあります。

また、「不浄」とであるとみなされてきたダリットは、他カーストと同じ水源の使用を妨害されることがあります。ダリットが同じ水道や井戸を使用したり触れたりしたら、暴力を伴う制裁をうけることがあります。学校においても同様に、学校の管理者や教員あるいは生徒が、ダリットの生徒に同じ水道を使わないよう命じたり妨害することがあります。こうした現象は主として農村地域で見られます。

家にトイレがない場合、人びとは外にある共同のトイレや周辺の野原で用を足します。特に女性にとって、共同トイレが近くにない場合、頻繁に行くことはできず、我慢を強いられます。また大抵、作りは粗末で、電灯もないため、安心して使えません。周辺の野原で排泄することで環境が汚染されたり、用を足している間に蛇にかまれる危険性もあります。



最初はみんな私の話を聞こうとしませんでした。

中には『あんたに関係ないだろう』とつかかってくる人もいました。でも私はあきらめず、家にトイレを作ればどれほどよいことがあるか、説明して回りました。

最後にはどの家も私の話を受け入れて、トイレを作りました。

今では村の人の衛生に対する意識が大きく変わり、私は感謝されています。

ーネパール、FEDOのブンティ・サラさん
戸外での排便ゼロキャンペーン
への貢献でチャンドラプル村から表彰された時の言葉。
(FEDO 2018年第一四半期ニュース)

ダッカ市内にあるあるダリット居留区では16世帯（84人）で一つの水源を使い、8世帯（40人）で一つの乾燥トイレを使っています。農村地域のダリット世帯の21%は自分の家に掘り抜き井戸をもっていて、65%は共同の掘り抜き井戸を使っています。残る14%は飲料水を含む生活用水を地表水（池や川）から汲んでいます。

ーバングラデシュ
(市民のカ レポート)



ネパールのダリット居留地の共同ポンプで気持ちよく顔を洗う住民。異カーストが混住する地区ならば、ダリットはこのように使うことはできない。

写真： Robert Few、OHCHR

衛生問題や環境改善に 関心のあるあなたへ

活動する地域や国にダリットはいますか？

ダリットは、水道やごみ処理などの公共サービス、
排水設備の設置や改善の対象から
外されていることがあります。

技術的支援やノウハウの共有に加え、
それらが供与される現地で、
ダリットもその恩恵を受けているか
チェックするようお勧めします。

ネパール、パルサ郡、
ダリットの村の毎日の風景

写真：IMADR



3.2

インド のダリットの子どもたちが
学校に通う平均年数は **3.2** 年。¹⁰

44.9

バングラデシュ のダリットの **44.9** %は
一度も学校に行ったことがない。¹¹

52.4

ネパール のダリットの識字率は **52.4** %
(ネパール全体では65.9%、
平地部ダリットコミュニティ¹² では34.5%)。¹³

教育

義務教育の無償化や学校施設の建設等、政府・非政府組織によりさまざまな取り組みがなされ、小学1年生での就学率は全般的にどの国でも高くなってきました。しかし、どの国にも、貧困のために中高等学校への進学を諦めざるをえないダリットの子どもたちが多くいます。十分な教育を受けていないために仕事の選択肢は限られ、普通の生活ができるだけの収入を得ることができません。

教育の質における格差が広がりつつあります。インドでは、より質の高い教育を提供する私立学校が増え、ダリットやその他の被差別コミュニティの子どもたちが通う公立学校の設備や授業内容は、財政が苦しいことを理由に改善されていません。

またダリットの子どもたちのドロップアウトも深刻な問題です。他カーストの生徒や時には教員からのいじめや嫌がらせ、あるいは家の手伝いをしなくてはならないなどの家庭の事情による中途退学は後を絶ちません。教室で他の生徒から離れた場所に座らされる、水道を使わせてもらえない、課外活動から除外されるなどの報告は未だに多く聞かれます。

ダリットの子どもたちの高等教育や大学教育を奨励するために、奨学金制度や入学優遇制度が導入されていますが、圧倒的多数の子どもたちはそこにまで到達できません。また苦勞を乗り越えて大学へ進学しても、ダリットであると判明した途端に、教員や他の学生からの冷たい仕打ちや嫌がらせにあい、中退したり、時には自殺に追い込まれる場合もあります。



マンシは小学校に通う2年生の女の子です。

ある日、学校で校長先生に校庭に放置されている子犬の死体を片付けなさいと言われました。驚いて拒否したところ、マンシは校長に思いきり棒でぶたれました。その後、罰として、校長は校内の掃除を定期的にするよう命じました。調査によれば、マンシのように多くの子どもが学校でそうした用事をするよう命じられています。

なぜか？

子どもたちはみんなダリットだからです。

ーインド、ウッタラ・プラデッシュ州のダリット少女

ネパール、ジャージアルコート郡の7歳のラクシミ・ネパリは、毎朝早く起きて、急いで学校に向かいます。同じ年の子どもたちは教科書や教材をさげて学校に行きますが、ラクシミは片手にずだ袋、もう一方にハンマーを持っています。

100ルピーのため、ラクシミは早朝から学校の前にある採石場で石を砕いて砂利にします。

決して望んでやっているわけではないけれど、生活のためにそうしなければなりません。

朝7時から9時まで働いて袋を砂利でいっぱいにします。

「お金は両親に渡します、これで本と服を買ってくれます」と言いました。

ーネパール、ダリットの少女の証言

教育支援に関心のあるあなたへ

活動する地域や国にダリットはいますか？

公立学校の環境改善や教員、
あるいは教育の質の改善を助けるような
取り組みができる可能性はありますか？

就学率是一个の鍵となる指標ですが、
ドロップアウトや進学率は
子どもたちが実際に教育の恩恵を受けているか
どうかを確認する指標です。

インド、タミールナドゥ州 農村教育開発協会（SRED）が運営
する寄宿付き教室で学ぶ子どもたち。親をなくしたり、親のネグ
レクトで放置されているダリットや先住民族の子どもたち。

写真：IMADR



14.6

2018年 UNウィメンが発表したデータによれば、

南アジア 全体のダリット女性の人口は約1億2000万人、
ダリット女性は支配カーストの女性より平均寿命が

14.6 歳短い。

14.0

インド のダリット女性に対する犯罪は

2016年度6,568件、そのうち **14.0** %は性的暴行とレイプ。

(バングラデシュおよびネパールの
ダリット女性に関する適切な数字は、
政府がマイノリティ別の細分化された
データを収集していないため入手困難。)

女性

南アジアでは家父長制が根強く残り、女性は男性に従属して当たり前という意識が広く行き渡っています。そのような社会において、ダリット女性はダリットゆえに差別を受け、女性ゆえに蔑まれ、最も周縁に追いやられた集団として、さまざまな困難を強いられてきました。例えば、他カーストと同じ水源を使うことを許されていないダリットは、より不便な所に水を汲みにいかなくてはならず、その仕事は大抵女性や子どもが担っています。多くのダリットの親は女子に教育はいらないと考えており、就学年齢であっても女子には家事や子守りをさせて学校に行かせません。さらに幼児婚の慣習が農村部で根強く残っており、家計を救うため、早くて10歳で結婚させられる少女たちがいます。こうして女性たちは教育の機会を奪われ、さらには社会参加の機会を阻まれてきました。

ダリット女性にとって最大の脅威は暴力です。性暴力、身体的暴力、言葉による暴力、レイプ、人身取引、強制的売春、幼児婚、…、さまざまな形態の暴力があります。インドでは、支配カーストに歯向かったダリットの村人への見せしめとして、村が襲撃され、女性たちが性暴力の被害を受けることが頻発しています。ネパールでは、貧困から抜け出るために甘言に騙されて買春宿へ売られる女性たちが多数います。バングラデシュでは夫が妻に暴力を振るうのは間違っているとは考えられていません。ダリットの家庭では、外で差別や屈辱的な扱いを受けた夫が、そのはけ口として妻に暴力を振るうことは決して珍しくありません。



私の町では女性への暴力が横行しています。

多くの場合、女性たちは表沙汰にするのを恐れて黙っていますが、なかには、法の裁きを求めようとする女性もいます。

しかし、お金がかかるため結局は断念せざるをえません。

ダリット女性は貧しく、食事すら満足にできません。

—ネパール、FEDO地方メンバーの証言

ダリットが非ダリットの人を好きになり結婚しようとしたら、非ダリットの家族は『あなたは清掃人の家の人間でしょう。私たちと親戚になろうなんて、そんな夢みたいなことをよく考えられるね。』と言いました。

—バングラデシュ

私の経験では、会社の女性社員のなかで一番昇進するのは非ダリットで、肌が白く、外見がよく、上位カーストの出身で、多くの人に知られている、そのような人です。

—インド、多国籍企業でエンジニアとして働くダリット女性の証言

ダリット女性に関心のあるあなたへ

インドやネパールでは、ダリット女性たちが
自助グループを組織し、女性の権利について学び、
自らをエンパワーしています。

外の世界へ大きく踏み出し、
自分たちの問題を可視化しようとしています。
バングラデシュでは、国際連帯や国際人権を使った
ダリットの運動が活発になり、ダリット女性の
問題が徐々に可視化されてきました。それに伴い、
ダリット女性も自らを組織しはじめています。

こうしたダリット女性の活動は女性たち自らが
立ち上がることにより広がってきました。
生活に根ざしたこれら女性たちの取り組みは、
今行っている事業あるいは関心のある現地の活動の
すぐそばで進められているかもしれません。



闘え！ダリット女性

写真：IDSN
<https://idsn.org/key-issues/dalit-women/>

18.0

インド のダリットの失業率は **18.0 %**
(全国平均は14%、2011年国勢調査)。¹⁵

59.0

バングラデシュ のダリット被雇用者の **59.0 %**は
職場における差別を感じている。

ダリット被雇用者の43%はトイレ・道路清掃
22%が農業、14%が茶畑で働いている。¹⁶

0.2-1.0

ネパール のダリット女性が
2〜3キロの米を脱穀する仕事で得られる手間賃は
0.2 ~ 1.0 米ドル。

雇用・労働

カースト制度のもと、人びとはサブカースト集団毎に定められた仕事に従事してきました。この分業制度は下層にいくほど細分化され、「穢れている」あるいは生死に関わると考えられる仕事を含み、人びとが嫌がる仕事は最下層のダリットに割りあてられました。ダリットをはじめ底辺に置かれた人びとは生まれた時から将来何になるのか、何をするのが決められていたのです。

近年になり、インドとネパールではカースト制度が廃止され、職業の選択を規制するような社会の決まりはなくなりました。しかし、貧困や教育のセクションで見てきたように、ダリットの子もたちが将来の夢を描き、それを目指せるような条件はほとんど備っていません。さらには、清掃、埋葬、屠畜など世襲的に就いてきた職業ゆえに、ダリットは「穢れている」という意識が人びとの心の中にあり、法律で禁止されているにもかかわらず、他カーストによる不可触制の行為が頻発しています。

インド、ネパールでは大多数のダリットは農村や山間部に住んでいます。その多くは土地をもたないため、農業が生計手段とというものの、実際にはよその家の農作業の手伝いをしたり、農園主のもと債務奴隷のような形で働いています。バングラデシュでは、ダリットが起業のために資金を調達しようとしても、担保となる不動産がないため、融資の機会からも遠ざけられています。



私は学校で商業と銀行業務を勉強しましたが、仕事は見つかりませんでした。結局、村役場で働くことになりましたが、私が教育を受けているにもかかわらず、トイレ清掃の仕事を割り当てられました。

私とそのカーストコミュニティの出身だからです。

ーインド、マハラシュトラ州ダリット女性の証言

インドには約12万5000のレンガ窯があり、1000～2300万人が働いていると推定されます。そのすべてはダリットと後進階級のカースト出身者で占められています。多くは家族で窯の周囲に住んでいて、子どもたちは小さければ5歳から働いています。債務奴隷としてその循環から抜け出せない人びとがほとんどです。¹⁷

子どもたちのことが心配です。

この子たちが私たちのようになったら、住む家もなく、食べるものもなく、絶望しかない日々が続いたら…。

ーインド、レンガ窯で働くダリット



インド、西ベンガルのレンガ窯

写真： Joydeep Mukherjee

雇用・労働問題に関心のあるあなたへ

なくなる児童労働

タミールナドゥ州の多くの綿花農場は、コスト削減のため安価な労働力として就学児童をパート労働者として雇用しています。子どもたちは朝6時から9時まで働き、そのあと学校に。そして学校が終われば、夕方4時から6時半まで働きます。賃金は1日50～60ルピー（約120円）。大人ならば同じ労働時間で150ルピーは支払われます。子どもたちの多くはダリットの子供です。

（オランダ・インド委員会「綿花農場の忘れられた子どもたち」2015年より）

雇用における差別

インドでは民間企業がダリットを雇用したくないため、求人を公募しない、あるいは公募をしても応募者の名前がダリット出身を示している場合、書類選考で落とすことが少なからずあります。¹⁸ダリットの社員が働く工場や会社では、昼食の場所を分離したり、ダリットの社員だけは名前で呼ばないことがあります。不可触制の意識より飲食を共にしたり、名前を口にすることで「穢れる」と考えているからです。

ダリットはどこに住んでいますか？

インドではダリット人口の80%は農村に住んでいると言われます。ダリットへの差別の大きな特長は「穢れている」として隔離することです。農村地域では、同じ町や村であっても、中心から離れた地理的条件の悪いところに住んでいたり、下層カーストの世帯から道一本離れた一画に住んでいます。都市のダリットの多くは農村から仕事を求めて移り住んできた家族です。安定した仕事が見つからない場合、海岸や川沿いの一画に無断居住者として小屋を立てて集住することがあります。安定した収入を得ていても、家主に断られるなど、入居差別を受ける場合があります。

ダリットはヒンズー教にしかいないのですか？

インドでは、ヒンズー教から仏教、キリスト教、シーク教などに改宗した人は多数います。多くはヒンズー教の産物であるカースト制度があるから差別や排除をされるのだと考えるダリットの人たちです。しかし改宗してもインド社会においてはダリットであることに変わりはありません。また、カースト制度は社会の奥深くに入り込んでいるため、他の宗教の組織内においても序列的なカースト制度が影を落としていると言われています。バングラデシュの大多数はムスリムであり、ヒンズー教徒はマイノリティです。イスラム教に改宗したダリットもいるため、ダリットはヒンズーとムスリムのどちらにもいます。

ダリットは先住民族ですか？

ダリットは先住民族ではありません。それぞれ、その国の言語、文化、習慣を多数派とともに共有しています。ただし、バングラデシュではヒンドゥー教徒（人口の10%弱）としてダリットは少数者です。ネパール、インド、バングラデシュにはそれぞれ先住民族がいます。インドではダリットだけではなく先住民族も指定部族として留保制度の対象になっています。ネパールでも、高等教育や議員選出においてダリットとともに先住民族にも優先枠が設けられています。

ダリットは他のカーストの人と結婚できるのでしょうか？

カーストや民族に関係なく結婚は自由な選択ですが、実際にはダリット出身者（大抵は女性）と異なるカーストの人との結婚は自由ではありません。親や家族が反対する以上に、周囲の村人がダリットとの結婚に強く反対し、時には、女性の実家がある村を襲撃することがあります。特に農村地域では、ダリットの親はできるだけ早く娘を結婚させようとしています。そこには女性の意思は存在しないため、他のカーストとの恋愛結婚を決める女性は、ダリットコミュニティにおいて自立心の高い女性といえるかもしれません。

よくある質問

ダリットが大統領や首相になったことはありますか？

インドでは1997年に初のダリット出身の大統領としてコチェリル・ラーマンナラヤナン氏が選出されました（2002年まで1期在任）。また、2017年に2人目のダリット出身大統領としてラム・ナト・コビンド氏が選出されました。大統領は間接選挙で議会議員に選ばれます。インドは議院内閣制のため、大統領職は儀礼的で象徴的です。ネパールではまだダリット出身者が首相や大統領になったことはありません。

ダリットはアジアの他の国にもいますか？

南アジアにはその他、スリランカとパキスタンにダリットのコミュニティが存在します（各約250万人、呼称は異なる）。スリランカでは、インドから英国植民地時代に紅茶農園に連れてこられたタミール人と、多数派のシンハラ人のなかに同類の差別が存在します。パキスタンでは少数者のヒンドゥー教徒のなかに存在します。また、マレーシアにある南アジアからのディアスポラコミュニティにおいて、世系に基づく差別の慣行が存在し、約120万人に影響を及ぼしています。大半はインドのタミール地方から農園労働者として移住したダリットとその子孫です。

国はこれら差別を放置しているのでしょうか？

インド、ネパール、バングラデシュの3カ国はこの形態の差別の存在を正式に認め、雇用と教育の分野における是正措置（留保制度など）をとっています。インドとネパールではダリットに対する不可触行為や虐待を禁止し、制裁を科す法律があります。同じく、ダリット女性の教育やダリット全体の政治参加を促進するプログラムがあります。法律や制度は整っているものの、それらが効果的に実施されていないこと、十分な予算が配分されていないことが大きな問題です。

機関・組織

国連機関

人権

国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）

人種差別撤廃委員会（CERD） 関係国の報告書審査、世系に関する一般的勧告他

女性差別撤廃委員会（CEDAW） 関係国の報告書審査、女性に対する暴力に関する一般的勧告

人種差別に関する国連特別報告者

現代的形態の奴隷制に関する国連特別報告者

マイノリティ問題に関する国連特別報告者

安全な飲料水と衛生の権利に関する国連特別報告者

開発・労働・女性

国連開発計画（UNDP） 持続可能な開発目標（SDGs）

国連児童基金（UNICEF） 子どもの福利、児童労働

国際労働機構（ILO） 債務奴隷、児童労働

UN Women ダリット女性

国際組織

国際ダリット連帯ネットワーク（International Dalit Solidarity Network, IDSN） *
多様な調査研究、現場からの声
<https://idsn.org/>

Anti-Slavery International * 債務奴隷、現代的形態の奴隷
<https://www.antislavery.org/>

地域組織

アジア・ダリット権利フォーラム（Asia Dalit Rights Forum, ADRF） *
南アジアのダリット組織のネットワーク：
<http://asiadalitrightsforum.org/interventions.php?id=#26>

国内組織

フェミニスト・ダリット協会（Feminist Dalit Organization, FEDO） *
ネパールのダリット女性のエンパワメント：
<http://www.fedonepal.org/>

ダリット人権全国キャンペーン（National Campaign on Dalit Human Rights, NC-DHR） * インドのダリットの人権運動
<https://www.facebook.com/NCDHR/>

人間開発機構（Human Development Organization, HDO） *
スリランカのマイノリティ
<https://www.facebook.com/hdosrilanka/>

バングラデシュ ダリットと排除された人びとのための権利運動（Bangladesh Dalit and Excluded Rights Movement, BDERM） *
<http://bderm-bd.org/>

世系に基づく差別撤廃に取り組む機関 および参考文献

研究機関

インド・ダリット学研究所（Indian Institute of Dalit Studies, IIDS）＊
多様で豊富な研究調査
<http://www.dalitstudies.org.in/>

オランダ・インド委員会（India Committee of the Netherlands, ICN）＊
債務奴隷や児童労働など
<http://indianet.nl/english.html>

＊印はIMADRと連携している組織

調査・研究報告

世系に基づく差別に関するガイダンス・ツール（OHCHR2017年）日本語
<http://imadr.net/wordpress/wp-content/uploads/2017/11/9bb96b82595be6c73d1f8c31a4bf5a8c.pdf>

職業と世系に基づく差別の効果的撤廃のための原則および指針草案（国連人権小委員会2007年）日本語
<http://imadr.net/wordpress/wp-content/uploads/2012/10/4bc589d0a9ef9d379f9df7cedc76d01.pdf>

世系に基づく差別に関する一般的勧告29（CERD2002年）日本語
<http://imadr.net/wordpress/wp-content/uploads/2012/09/B-4-3.pdf>

カーストおよび世襲的地位の類似した制度に基づく差別に関するマイノリティ特別報告者のレポート（2016年）
<http://imadr.net/wordpress/wp-content/uploads/2018/09/8c993babae26939c485dac1cd68e1532.pdf>

- 1 「指定カースト」とされる人たち。
- 2 オックスフォード人間開発・貧困イニシアティブ(OPHI) インド国別ブリーフ、p. 5の
多次元的貧困指数(MPI)
- 3 Parvez, Altaf and Islam, Mazhar, 2014. Bangladesher Dalit Samaj,
Boisommo, Bonchona and Osprishhota (Dalit Communities in
Bangladesh: Situation of Discrimination, Exclusion and
Untouchability). Dhaka: Nagorik Uddyog and BDERM
- 4 国際ダリット連帯ネットワーク(IDSN)ファクトシート、
[https://idsn.org/wp-content/uploads/2018/07/CERD-briefing-paper-NEPAL-
review-April-2018-.pdf](https://idsn.org/wp-content/uploads/2018/07/CERD-briefing-paper-NEPAL-review-April-2018-.pdf)
- 5 インドでは、ダリットと先住民族(指定部族)。
- 6 国連安全な水と衛生に関する人権に関する特別報告者、インド訪問報告
(A/HRC/39/55/ADD.1)、パラ59、60
- 7 Parvez, Altaf and Islam, Mazhar, 2014. Bangladesher Dalit Samaj,
Boisommo, Bonchona and Osprishhota (Dalit Communities in
Bangladesh: Situation of Discrimination, Exclusion and
Untouchability). Dhaka: Nagorik Uddyog and BDERM
- 8 Tarai/Madhesi Dalit
- 9 国際ダリット連帯ネットワーク(IDSN)、第2回ネパール普遍的定期的審査報告書、
パラ39
[https://idsn.org/wp-content/uploads/2015/11/Nepal-UPR-2015-Dalit-Coalition-
and-IDSN-report.pdf](https://idsn.org/wp-content/uploads/2015/11/Nepal-UPR-2015-Dalit-Coalition-and-IDSN-report.pdf)
- 10 アジア・ダリット権利フォーラム(2017年)、Progress towards Inclusive
Sustainable Development in India – A study of Dalits and Adivasis in 2030
Agenda、16ページ
- 11 Nagorik Uddyog and BDERM
- 12 Tarai/Madhesi Dalit

脚注

- 13 国際ダリット連帯ネットワーク(IDSN)、第2回ネパール普遍的定期的審査報告書、
パラ22
<https://idsn.org/wp-content/uploads/2015/11/Nepal-UPR-2015-Dalit-Coalition-and-IDSN-report.pdf>
- 14 2013年、FEDO調査
- 15 <http://asiadalitrightsforum.org/images/im-geeevent/293284207ADRF%20report%20for%20web.pdf>
- 16 BDERM+Citizen's Initiatives SDGsに関するレポート
- 17 Anti-Slavery International レポート2017年9月
<http://www.antislavery.org/wp-content/uploads/2017/09/Slavery-In-Indias-Brick-Kilns-The-Payment-System.pdf>
- 18 Indian Institute of Dalit Studies
<http://www.dalitstudies.org.in/uploads/publication/1473142555.pdf>

ハンドブックを読んでいたあなたに：

伝えきれていないことがたくさんあります。
もっと知ってもらいたいことがたくさんあります。

今回、初めてこうした本の作成に挑戦しました。
とりあげたテーマはほんの一部であり、どれも奥が深いです。

このハンドブックが二倍、三倍役立つものになるよう、
ご希望に応じてワークショップを開催します。
「ダリットを知るために」をシリーズ化して
さらに関心を高めてもらうよう続編を作成します。

これらを約束して、次の機会を楽しみにしています。

**編集者一同
反差別国際運動**

ダリットを知る

グローバルイシューとしての世系に基づく差別に向きあい
誰ひとり置き去りにしないために

発行 2018年10月15日

編集・発行 反差別国際運動（IMADR）

〒104-0042東京都中央区入船1-7-1 松本治一郎記念会館

電話：03-6280-3101 Fax：03-6280-3102

E-mail: imadrjc@imadr.org URL: <http://imadr.net/>

制作協力 アジア・ダリット権利フォーラム（ADRF）

印刷・製本 モリモト印刷株式会社



写真提供

マイノリティ女性・子ども支援 ISSYO